

平成 30 年度第 5 回古賀市スポーツ推進審議会【成人部会】 会議録
(要約筆記)

(事務局)

- ・それでは本日の発表内容を確認したい。

(座長)

- ・過去の資料を見返してみて、運動のきっかけ作り、運動習慣の定着、健康づくり、障がい者スポーツの推進 4 つの視点から 10 年後に市民がなっていて欲しい姿をイメージし取り組んできた。
- ・きっかけづくり、運動習慣の定着、健康づくりに関して気づいたところは「行政と民間」の協力が必要であるということ。人と人のつながりが必要であるということ。
- ・成人部会の役割は、無関心層をいかに取り組むかが肝心である。
- ・行政などの提供する側や市民の意識を変えることが必要である。例えば障がい者の方に対して、健常者側に対してのアピールを行う。
- ・行政も利用者に対して料金を利用者負担という認識に変えていく。当たり前を変えることによって幅が広がってくる。
- ・以上のことを踏まえて発表しようと考えているが他に追加すべき意見などはないか。

(事務局)

- ・皆さんおおむね賛同のようですので、前回時間が足りずに話し合えなかった「スポーツ無関心層」の拾い方について意見をいただきたい。

(委員)

- ・時間がなくて運動できない人を無関心層と捕らえるのであれば、個人的にどうしようもないのではと思う。

(事務局)

- ・無関心層とは時間的余裕・経済的余裕・身体的余裕などの要因がそろっている層とする。

(座長)

- ・国から得た情報では、スポーツという考え方自体を広く捉えることがよい。
- ・高齢者世代などは、スポーツと聞くとどうしても全力でやらないといけなそうと思込込んでいる方が多いが、実はそうではない。
- ・室内で少し体を動かすこと、今まで近くのスーパーへ車で行っていたが歩いていくこと、このように手軽にできることをスポーツだと認識を変えていくことで、忙しくて時間がない人や身体的に激しい運動ができない人でも、運動していることを実感できるようになる。
- ・スポーツをしてないと思っていた人たちに対して行政から「実はそれもスポーツだ」ということを教える。

(委員)

- ・気軽に軽度なものをスポーツととらえてよいのであれば、母親世代も子どもを遊びに連れて行ったりしているので、かなりの人たちがスポーツをしていると捉えることができると思う。
- ・しかし、意識して取り組むとなると精神的余裕がないと難しい。

(座長)

- ・他の県の取組では、スポーツ推進委員が民間企業に出向いてお昼休みにラジオ体操をするなど、周りを巻き込んだ活動している。
- ・民間の力が必要になるが、競技名がついていない軽度な運動の「運動量」が分かれば更に市民は理解しやすいし、やる気も出やすい。

(事務局)

- ・県の計画では、無関心層について何か記載はあるか。

(座長)

- ・県の計画では、「機会を作ること」や「運動する場所を確保すること」「意識の改革すること」などで具体的には書いていない。

(委員)

- ・基礎体力を作る運動や準備運動をスポーツと捉えるのは意外だった。

(座長)

- ・昔の体育の授業ではバスケットならバスケットを丸々一時間やっていたが、今はそうではなく、基礎体力運動を最初に行い、その後バスケットに入るような形がとられている。そういう意味では若い世代の方がスポーツに対しての認識が広いはずである。

(事務局)

- ・基礎体力運動を取り入れることによって競技の専門性以外、例えば体の動かし方などが学べるため結果的に運動能力の向上につながる。